

ノ別アリ、

〔薦錄下〕附考並餘考

從來呼煙筒接頭尾之竹木幹稱辣烏、辣烏蓋羅浮也、羅浮產斑竹、載煙筒多用焉、我方亦已傳用之、漸爲通稱乎、肥之前后諸國等於今非用斑竹不稱羅浮竹、其用他物者稱竿竹云、又嘗西川釣淵曰、老撾地屬南印度、西隣暹羅國、多產班竹、大小數種、其小者用爲煙筒、今之辣烏竹即是也、二說併記以備他日考爾、

〔毛吹草三〕豐後 キセル竹有符之

〔古今要覽稿草木〕くろちく

くろ竹は漢名を黒竹一名烏竹といふ、即和漢通名なり、また一名を筠竹或は鳥歩竹ともいふ、此竹小野蘭山は播磨にありと本草綱目啓蒙いひ、谷川士清は薩摩にありと和訓乘いふ、佐藤成裕曰、薩摩の産はその竹雄竹に似て幹極めて紫黒色なりと、この種播磨に産するものと同種なるや否を玄らす、今松平越中守大塚の下邸にあるものは、高さをよそ七八尺、枝葉並びに紫竹に似て、其色紫竹よりも極めて黒し、此種は即漢産のよし、一種觀音竹あり、また黒竹と名づく、その幹細小にして長さ二丈八九尺、狀古藤の如し、瀛海勝覽彙苑詳註また一種烏竹あり、筍をいだす時、その色黒し、詳錄また絲竹一名黒竹あり、茅亭ともに和產これある事をきかず、

〔撮壤集中〕紫竹

〔饅頭屋本節用集之〕木紫竹

〔和爾雅七〕木紫竹

〔大和本草九〕紫手 色紫黑、淡濃紫白相雜レリ、

〔倭訓栞前編十一〕亥ちく 紫竹也、續拾遺記に見えたり、

紫竹

黒竹